

## 連合神奈川青年委員会 秋の学習会

2023年11月7日(火)18時半より連合神奈川青年委員会秋の学習会が開催されました。

司会の照井副委員長より開会のもと、来賓を代表して連合神奈川阿部副事務局長より挨拶として労働組合が政治に参画する理由として単組では対応しきれない行政で対応が必要な条例、規則への対応を行なっていること等をご説明頂きました。

講師として昨年まで連合神奈川青年委員会で副委員長のいど清貴川崎市議会議員に公演をいただきました。



第一部では政治と労働組合とのつながりや川崎市議となって考えることをテーマに会社員、労働組合役員としての経験を通じて組合員の意見を聞いている中で、同様に1日の大半はプライベートの時間であり、QOLを向上させていく中で社会を良くすることの大切さから、川崎が良くなるための未来社会のための活動に至った経緯を説明されました。

そしてこれからの地域社会のために1.安心して子育てできる街 2.魅力あふれる街 3.安心して住める街にするべく取り組みたい旨を表明いただきました。

川崎市議会の令和5年第3回の定例会の中では産後ケア事業に関する一般質問を行い、川崎市にお

ける宿泊型の産後ケア事業についてより利用される制度にするため利用率向上に繋げるように要請したことが報告されました。

同じく第4回定例会では妊産婦医療費助成制度の対応に関する質問を行い、改善に向けて継続して対応していくよう報告されました。



第二部では、いど議員と青年委員会役員の対談が行われました。

青年委員会を代表し、佐藤事務局長と運輸労連青年婦人部でも事務局長を務める徳留副委員長より質問が行われました。

①議員に立候補したきっかけ

→妻の出産をきっかけに育児にかかる費用を意識したことや、誰かがチャレンジしなければ何もチェンジできないことから挑戦を決意

②県議会や国政等も考えているか

→現状では政令指定都市としてまだまだできることがあると感じている。

③若者の政治離れ、投票率の低下が進んでいるが、課題やポイントは何か？

労働組合が何に注意すれば改善できるのか

→身近に組織内議員等がいれば町の身近な問題を解決できるかもしれない。

組織内議員の強みとして頼りやすさが大切。

若手の投票率の低下については、働く子育て世代に訴えていくことで青年委員会の意見を代表して対応していくことで関心を持ってもらえるように努める。

④会派によって考え方の齟齬の対応方法は？

組合でも意見の食い違いはでると思うので参考にしたい

→大きな目的として市民のために。というのはついてくるので意見が割れてもそこは念頭にある。

最後に参加者のアンケートの回答を行い、松本委員長より閉会の挨拶が行われて秋の学習会が終了しました。

